

## 令和4年度第2回京都市環境影響評価審査会

### 【 摘 録 】

日 時：令和4年12月13日（火） 午後1時15分～午後2時35分

場 所：京都市役所本庁舎第1会議室

出席委員：板倉豊委員※、越後信哉委員※、大久保規子委員※、柴田昌三委員※、竹見哲也委員※、  
東野達会長、本田晶子委員※、松田法子委員※、安田龍介委員※、山田悦委員※（10名）

欠席委員：青野正二委員、勝見武委員、塩見康博委員、建山和由委員、平山貴美子委員（5名）

（※＝オンライン参加）

【資料1】第12次京都市環境影響評価審査会委員名簿

【資料2】「京都プロジェクト（仮称）」に係る手続の実施状況及び今後のスケジュールについて

【参考資料】諮問書（写）

議 題 京都プロジェクト（仮称）に係る環境影響評価方法書について（諮問及び審議）

議 事 1 開会

2 議事 以下のとおり

3 閉会

### － 摘 録 －

事 務 局 現在、10名の出席をいただいている。京都市環境影響評価等に関する条例施行規則に基づき、本審査会が成立していることを報告する。

東 野 会 長 まず、京都市から諮問を受ける。

#### < 諮 問 >

東 野 会 長 それでは、「京都プロジェクト（仮称）」に係る環境影響評価方法書の審議に移る。まず事務局から資料について説明をお願いします。

事 務 局 < 資料2に基づき説明 >

東 野 会 長 続いて、事業者に、「京都プロジェクト（仮称）」に係る環境影響評価方法書について、事業の概要及び環境影響評価方法書についての説明をお願いします。

事 業 者 < 環境影響評価方法書に基づき説明 >

東 野 会 長 本日欠席の委員から事前にいただいている意見があれば紹介をお願いします。

事 務 局 勝見委員からの意見を報告する。

工事内容の具体化にあわせ、地下水への影響予測を的確に行うことが重要である。

- 帯水層の厚さ及び深さ方向の位置と構造物との位置関係が重要である。
- 帯水層の地質の透水性の高さと豊富な水量があれば、施工後、地下水が構造物を回り込んで回復するが、帯水層の上から下までを構造物で遮断する場合、横からの回り込みのみとなるので影響が出る可能性がある。
- 深く掘削する場合、工事中の周辺地下水位への影響が懸念され、影響範囲をいかに小さくするかが重要である。
- 近隣ならびに市内の比較的大規模あるいは深度の工事例を、本事業の参照にされたい。

なお、準備書作成時点で予測の不確実性が大きい場合は、不確実性を補うため、工事計画の具体化に応じた適切な調査等の計画を策定し準備書に記載することが望ましい。

以上である。

事業者 工事工法等の配慮として、方法書 18 ページに地下水への配慮方針を記載している。

地下水の湧出を抑えるため、遮水壁の構築を検討している。適宜、ボーリング調査を実施し、土質状況を踏まえながら、構築深度を検討する。

地下水は、可能な限り公共下水道への放流を抑制するように努める。

土質ボーリング調査等を踏まえ、還元に伴う水質基準を確認するなど適切に対応する。

地盤の崩壊を防止するため、掘削部周囲に山留壁の構築を検討している。

地下水水質及び地下水位の調査、予測及び評価の手法については、方法書 109 ページに記載している。

東野会長 近隣での工事の類似例はあるのか。

事業者 京都駅ビル等を確認していきたい。

東野会長 予測の不確実性への対応はどうか。

事業者 不確実性が確認されれば、慎重に検討する。

東野会長 そのあたりは準備書に記載いただきたい。

竹見委員 風害について、方法書 156 ページ以降に記載がある。方法書 161 ページの図 5.3.5-3 の○印の色分けの意味を教えて欲しい。

また、数字も黒色と水色で書かれているが違いは何か。

事業者 図 5.3.5-3 の色塗りは、方法書 156 ページに記載の表 5.3.5-1 に表している領域 A～D に該当する。

数字は地点の番号、文字の色は計測地点が地上（黒文字）か、地上よりも高い位置（青文字）かの区別である。

竹見委員 地面から高くなると風が強くなると思うが、方法書 160 ページの風環境予測結果の表において、必ずしもそうになっていないのはなぜか。

事業者 シミュレーションの結果、建設前と建設後の風速値がこの数字だった。

東野会長 方法書 160 ページの表は、配慮書の段階での予測結果であって、方法書に基づき、準備書においては別の方法で評価する予定でよかったか。

事業者 方法書に基づき、準備書では風洞実験によって風環境の評価を行う。

安田委員 風洞実験に方針を変更したのはなぜか。

事業者 配慮書段階では複数案の検討を行うので、模型を作成する風洞実験よりもシミュレーションが目的に適っている。準備書では選定した案に基づいて、風洞実験での対応を考えている。

安田委員 供用時に建物から排出される排気ガスの建物周辺への拡散について、どのように考えているのか。

事業者 大気質の予測については、年平均値による長期的評価を考えており、プルーム・パフ式で予測を行う。本件は工場のような大規模排出源ではないため、短期的予測は予定していないが、長期的評価の結果、必要であれば短期的予測も行う。

安田委員 風洞実験は、大気の濃度拡散とは関連付けず、あくまでも風害の影響評価を行うために実施するものか。

事業者 そのとおりである。

山田委員 本件建物の南側の道は広くなく、人と車両の通行量も多い。施設関連の車両や工事中の車両が、西隣のキャンパスプラザの前を通り、本件建物の南側から施設に入っているルートになっている。キャンパスプラザは学生をはじめ、人の出入りの多い施設であるが、安全確保をどう考えるのか。

事業者 工事車両の通行ルートは南側の道路と塩小路通に限られており、左折入場、左折退場になるようにルートを考えているが、通行に当たっては、誘導員を配置するなど配慮する。

山田委員 現状でも車が多いので、配慮いただきたい。供用後、学生が地上を歩かずにキャンパスプラザにアプローチできるか。

事業者 本件建物と京都駅の間は、2階レベルや地下で接続するが、本件建物とキャンパスプラザの接続は予定していない。キャンパスプラザへ南側の道を通る方に対

しては、誘導員の配置等、安全には十分配慮してまいりたい。

山田委員 残土処分について、環境に配慮した処分先を考えているか。

事業者 残土処分については、施工業者が決まれば適切に処分するように指導する。

東野会長 施工業者はいつ決まるのか。準備書には記載されるのか。

事業者 決定は2025年度以降、都市計画の手続が終わった後になるので、準備書の段階では決定していない。

本田委員 工事車両のほか、バス車両が近隣病院の救急搬送機能に影響が及ばないように配慮する必要がある。

事業者 隣接する武田病院があり、救急車がよく駐車していることは把握している。密に連携を取って進めていきたい。

板倉委員 50m以内に病院があると騒音の規制基準が5dB低くなるので、留意いただきたい。

建物の壁面に野鳥が激突しないような配慮をお願いしたい。

屋上緑化について、提出された環境影響評価の図書に記載されていても、建物の耐水性などの問題で実現しないケースが散見されるので、耐水性なども考慮した設計をし、必ず実現して欲しい。

事業者 騒音につき、御指導を感謝する。慎重に対応する。

外壁については、景観上の配慮を行い、優良デザイン促進制度などを活用して専門家の意見を聞き、慎重に検討する。

屋上緑地について、都市計画提案に当たって必要な事項だと認識しているので、実現に向けて進めてまいりたい。

東野会長 バードストライクの件は、いかがか。

事業者 外観の検討に当たっては、専門家の意見も聞きながら、慎重に検討したい。

大久保委員 現在、基本設計・実施設計と環境アセス手続が並行して進んでいる状態だと思うが、方法書・準備書に書かれた内容をできる限り設計に反映させていくという観点から、環境アセス手続の各段階でどこまで設計ができている予定か。

事業者 現在は、基本計画段階で、間もなく終了する予定である。2023年度上期に基本設計を終了し、実施設計に入るので、準備書提出段階では実施設計が少し進んだところである。多少、予定は前後する可能性がある。

大久保委員 廃棄物と温室効果ガスにつき、既存資料に基づき予測するとのことだが、全体でどれくらいの排出量が予想されていて、どのような対策でどの程度減少するのかが比較できるように記載されていないと評価ができないのではないか。

2030年完成時点で、温室効果ガス46%削減を目指している京都市の政策と合

致とのことだが、実施設計段階でどのような技術を用いるのかが見えないと、実際には導入は難しいのではないかと。

廃棄物に関して、排出される廃棄物を削減することは、二酸化炭素の減少につながるが、大阪などでは、大型建築物の地下にバイオマス施設を設置し、建物内のエネルギーに活用している例がある。また、薄型太陽光パネルの壁面設置なども導入されつつあり、これら、ZEB (Net Zero Energy Building) 化に向けての最新の技術に対する予測・適用可能性について、検討の予定を教えてください。

事業者 温室効果ガスは、標準的な建物を建てた場合との比較で削減量を予測する。廃棄物は既存資料で施設用途ごとの原単位があるので、用途別面積を設定して排出量を算出していく。廃棄物の削減量の予測は難しいが、保全措置として削減取組を整理していきたい。

大久保委員 具体的な内容が書き込まれないと、計画に反映することが難しい項目もあるだろう。温室効果ガスについては、現時点で対策内容が決まっていれば、プラスアルファの部分も含めて教えてほしい。廃棄物についても、供用後にテナント等から排出される廃棄物の削減量の予測が難しいのは理解するが、バイオマスなどの設備を導入するならこの段階で決まる必要があるが、想定しているのか。

事業者 コージェネレーションを導入するかは検討中である。地下水熱利用についても、できるだけ使っていきたいとは考えているが、導入を決定しているわけではない。高効率熱源や自然換気システムは、採用を積極的に検討したいと考えている。廃棄物を活用したバイオマス施設の導入については、基本設計で検討し、導入の可否をコメントしたい。

大久保委員 不確実性はあると思うが、都市再生特別措置法に基づく取組であることから、京都市の重点施策である気候変動対策と整合するよう、具体的に記載していただきたい。

東野会長 温室効果ガスの排出に関してはライフサイクルで考えることが重要であるため、「GHGプロトコル」におけるスコープ3を検討し、材料調達やサプライチェーンでの排出量についても考慮していただきたい。バイオマスに関して、美観と廃棄物対策の観点から、植樹された樹木から出る落ち葉や剪定枝の活用方法を検討いただきたい。

越後委員 地下水に関する質問だが、本件建築物は、近隣の建築物と比べて、地下構造は深い方だという認識でよいか。

事業者 そのとおりである。

越後委員 近隣の情報が足りない場合もあるので、よく調べていただきたい。また、病院やホテルで地下水を利用されている場合があるので慎重に調査されるとよい。

大久保委員 建築物の環境性能について、ZEBやZEBオリエンテッドの取得予定があるのか、またCASBEEはSレベルを目指しているのかを教えて欲しい。

事業者 環境性能は重要な配慮事項であると考えているが、現在、検討中であり、目指すレベルはまだ答えられない。

大久保委員 大阪では、設計変更をしてでも、CASBEEのSレベル、ZEBオリエンテッドを取得した例もある。本事業は、都市再生特別措置法により、容積率等の配慮がされているので、それが負荷増加につながらないような工夫がなされるよう、最新の動向に合わせて柔軟な検討がなされることを期待する。

東野会長 解体に伴い発生する粉塵に関する配慮を記載して欲しい。

東野会長 以上で審議を終了とする。  
他にも意見がある場合は事務局に連絡をお願いします。

午後2時35分 終了